

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究要旨

研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

aktaにて平成30年度末までに990キットを配布、ACCにて790件のスクリーニング検査を実施した。検査結果と行動調査のリンクも97%の対象者から同意を得た。全配布機会であれいす東京の相談員が常駐し、全受け取り者の20%が利用した。aktaでのキット受け取り者の24%が本検査が生涯初検査機会と回答した。ハッテン場でも2回プログラムを実施し49件配布した。2019年2月には那覇市コミュニティセンターmabuiでも実施し22名のキット受け取りがあった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発-医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県内の25救急告示病院中20施設が参加する研修会を実施した。本研究班で開発したHIV感染症早期診断の手引きを医師会の協力も得て2000部配布した。NGOからも急性感染期に関する知識普及をSNSツールを用いて実施した。初年度試行したコミュニティセンターmabuiでのMSM限定のHIV梅毒検査会を、那覇市により実施し20名の利用があった。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

「岡山県もんげ～性病検査」は第1弾は受検者31人、HIV陽性が1件、梅毒陽性が6件であった。第2弾は受検者34人、HIV陽性が2件、梅毒陽性が7件であった。新たにクリニックを愛媛県、広島県(福山市)において開拓し検査を2期に分けて実施し、第1弾は、受検者12人、HIV陽性が0件、梅毒陽性が1件であった。第2弾は受検者18人、HIV陽性が0件、梅毒陽性1件であった。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

中四国、九州ブロックでのHIV治療拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019年3月時点で30件を回収した。ゲイバイセクシュアル男性22名分のデータの中途解析を実施した。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

インターネット利用に関する項目、Treatment as PreventionやPrEPの知識項目を追加し、中四国地域および横浜、仙台、名古屋地域で実施した行動データの解析、大阪、沖縄地域ではインターネット調査を実施した。本年度は地域ごとに単純集計で分析した。

研究分担者

岩橋 恒太

(特定非営利活動法人 akta 理事長)

健山 正男

(琉球大学大学院医学研究科・准教授)

和田 秀穂

(川崎医科大学血液内科学教授)

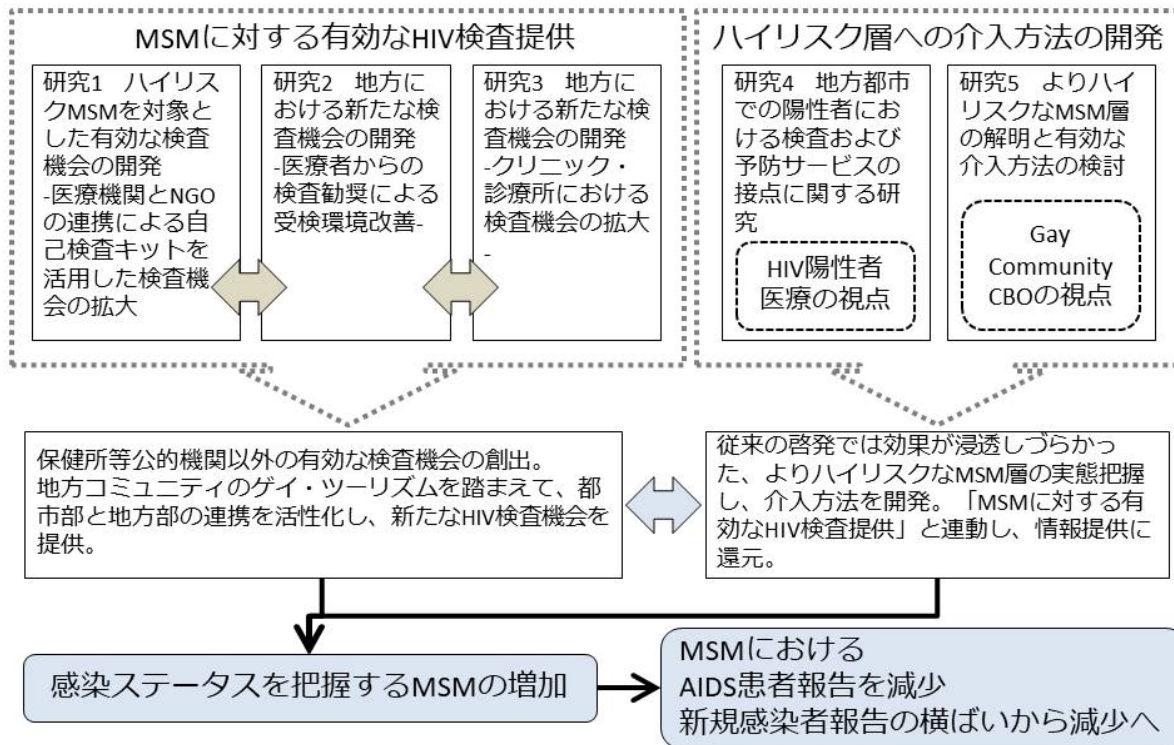
塩野 徳史

(大阪青山大学健康科学部看護学科・講師)

背景

- ・感染者の90%が感染ステータスを把握する状況ではない
- ・未受検者や定期的な受検習慣がないMSMに対する介入が必要
- ・よりハイリスクなMSM層を把握し、介入方法を検討することが必要

全体概要



A. 研究目的

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関とNPO akta が連携して開発した自己検体採取キットの配布と検査、結果通知がパッケージ化されたシステムを活用し、ハイリスクMSMの検査推進を図る。また受検者のHIV感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。
2. 地方都市で、公的機関以外の医療機関等を活用した新たなHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避けるMSMへの検査促進を行う。
3. 当事者NGOが協働し、従来の介入が届きにくかったハイリスクなMSMのインターネットサービスの利用状況を含む実態把握と有効な介入を試行する。

B. 研究方法

研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

研究分担者 岩橋恒太

医療機関（国立国際医療センター：ACC）とNPOが連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。

本検査は、原則下記の流れで実施する。①NGOスタッフが対面で自己穿刺の方法、結果告知から診療機関受診の流れを説明し、キットを配布し自記式質問紙調査への回答協力を依頼。②受検者は後日自己穿刺血をACCに郵送。③ACCでのスクリーニング検査結果は、受検者固有のIDとパスワードを専用WEBサイトに入力することで検査結果ページにアクセスが可能とする。④スクリーニングで要確認となった場合は、医療機関の予約と受診につなぎ、確定検査で陽性の場合にはHIV専門医療機関を紹介。⑤配布日には相談スタッフを常駐させWEBサイトには検査・相談・医療に

関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知を行う。

H30 年は、首都圏のコミュニティセンター akta とゲイ向け商業施設、沖縄県でキットの配布と質問紙調査を実施する。1,000 件/年の検査を提供し、有病割合を算出し、行動疫学調査を実施する。H30 年はコミュニティセンター akta と都内のゲイ向け商業施設ハッテン場での配布を 2 回行う。また受検者の検査結果と質問紙調査データをリンクして分析を行う。H31 年 2 月に沖縄コミュニティセンター mabui で検査キットの配布・初回評価を行う。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受 検環境改善 -

研究分担者 健山正男

地方在住の自発的な検査行動に至りにくい MSM の背景をコミュニティベースの質問紙調査で把握する。医療者を対象に HIV 早期診断の啓蒙、急性感染症状を呈する MSM への検査推奨を医療関係者とコミュニティ両方に対して実施する。

調査地域：沖縄県

H30 年度は救急告知病院での HIV 早期診断の啓蒙のための研修と啓発資料の配布、MSM 向け商業施設での急性感染期の知識の浸透度評価の調査、コミュニティへのバナーを活用した啓発を実施する。コミュニティセンターでの MSM 限定検査を保健所が主体になり実施する。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡 大

研究分担者 和田秀穂

岡山県での医療機関を活用した MSM 向け検査モデルを中四国ブロックにて普及させ、受検者動向調査、コミュニティベース調査により評価を行う。

調査地域：岡山県、愛媛県、広島県、その他中四国ブロック

H30 年度は新たに愛媛県、広島県での民間医療機関を開拓し、MSM にむけて二期に分けて検査提供を実施する。また香川県での新規機関開拓、インターネットを活用した CBO の広域広報により本プログラムの中四国全体への浸透・定着を図る。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行うものとする。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー ビスの接点に関する調査

研究分担者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。H30 年度は中四国、九州ブロックそれぞれの拠点病院において質問紙の配布回収、中間解析を実施する。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有 効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

H30 年度は初年度に中四国、仙台、横浜のゲイコミュニティにて回収した 896 件のデータの解析、大阪、沖縄、東海地域でデータを収集する。全国の 7 つの NGO と連携し、検査未受検の理由や MSM 向けインターネットサービス利用状況把握に焦点を当てた横断型自記式質問紙調査を実施する。

調査地域：東北、首都圏、横浜、東海、大阪、中四国、沖縄

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受

けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

C. 研究結果

研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

検査結果通知と受診へのつながりの WEB システムの構築と ACC での基礎検討を終え、H29 年度末(2月26日)よりコミュニティセンター akta での検査キットの配布を開始し年度末まで配布を実施した(2019 年も継続して配布する)。H30 年度は、新たに東京都内のハッテン場において検査キットの配布を 2 回行った。2 回配布プログラムを実施し 49 件配布した。H30 年 2 月から H30 年度末までに 990 キットを配布、ACC では 790 件のスクリーニング検査を実施、陽性は H30 年度末までで総計 20 件であった。検査結果と行動調査のリンクも 97%の対象者から同意を得た。全配布機会ですべていす東京の専門相談員が常駐し、20%が利用した。利用者の 24%が本検査が生涯初検査機会であった。2019 年 2 月には那覇市コミュニティセンター mabui でも実施し 22 名の利用があった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

急性感染期を疑う症状をまとめた医療者向けパンフレットを作製した。沖縄県内の医療機関にパンフレット 2000 部を配布した。コミュニティセンター mabui からも急性感染期の症状をまとめた情報配信を実施し、検査行動促進につなげる活動を展開した。また 2018

年 12 月にコミュニティセンター mabui において、MSM 向けの検査提供を那覇市の検査事業として行い 20 件の利用者があった。

沖縄県の MSM における HIV 陽性患者の特性の分析の結果、MSM 以外のコントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した。そこで受検の阻害要因を分析したところ、下記が明らかとなった。

1. STI 有病率は AIDS が有意に高かった。
2. 無症候性キャリアーの受検動機は自主的が最も高かった。
3. 対象期間の HIV 患者の病期は AIDS が最も多く、次いで急性 HIV 感染症であり、有症状の患者が診断されていた。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大

H30 年度からの中四国地域での検査の拡大展開のため、香川県や愛媛県と協議が進行した。特に愛媛県では、2 施設の参加クリニックが選定され、せとうちクリニック検査として広報展開と検査実施を 2 回に分けて実施した。「岡山県もんげ〜性病検査」は第 1 弾は受検者 31 人、HIV 陽性が 1 件、梅毒陽性が 6 件であった。第 2 弾は受検者 34 人、HIV 陽性が 2 件、梅毒陽性が 7 件であった。新たにクリニックを愛媛県、広島県(福山市)において開拓し検査を 2 期に分けて実施し、第 1 弾は、受検者 12 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性が 1 件であった。第 2 弾は受検者 18 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性 1 件であった。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

中四国、九州ブロックでの HIV 治療拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019 年 3 月時点で 30 件を回収した。ゲイバイセクシュアル男性 22 名分のデータの中途解析を実施した。地方都市では急性感染症状を発症

した際に病院を受診しても HIV 検査を勧められていない可能性があることが示唆された。陽性判明前に検査を受けたことがあるものは 23%であった。HIV の感染経路や予防方法についての知識はあるものの、HIV 治療薬の進歩による延命効果や、医療費の助成制度の認知は低いことが示唆された。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、よりハイリスクな層を明確化するために、インターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、新たな質問紙を作成し調査を実施した。初年度の横浜、東北地域での質問紙調査データ (N=896) の年齢別解析を進めた。地方都市居住 MSM においても HIV 治療・予防の新しい知識 (TasP や U=U 等) の保有は検査行動に正に関連することを示した。H30 年度は沖縄、大阪でもインターネット調査を実施した (N=400)。東海地域でもデータを収集した。

D. 考察

研究 1 は、最終年度も、目標配布数達成に向け、広報と配布を強化する。H31 年度はハッテン場での配布を終え、地方都市での実施予定である。首都圏で展開してきた「HIVcheck.jp」が他地域でも実施可能かの検証を進めていく必要がある。スクリーニング陽性者の確認検査のための医療へのつなぎを向上できるよう、検討を重ねていく。またハイリスクな MSM へ本検査を届けるための広報、配布場所のあり方も引き続き検証していく。研究 2 については、HIV 早期診断のために、医療者への適切なタイミングでの検査勧奨の促進、MSM コミュニティへの急性感染期症状の知識普及の取り組みを実施できた。最終年度はこの介入の効果を評価していく。また沖縄県の HIV 陽性者の MSM と非 MSM の比較分析

から、MSM においては、HIV 受検率が有意に低いことを示した。無症候性の HIV 患者を効果的に受検行動に誘導するプログラムの開発が重要である。研究 3 は新たにクリニックを開拓することができた。中四国は当事者 NGO の活動基盤も脆弱であるため広域連携など工夫をしながら、本検査の定着を図っていく必要がある。研究 5 では、全国 NGO と協働し、質問紙調査結果に基づき、検査未受検層、ハイリスク層を明確化していく。抗 HIV 薬の服薬治療により、ウイルス量が検出限界未満を維持することで、他者に感染させる可能性がほぼなくなるといった新しい知識の保有と検査行動の正の関連も示された。これらの新しい知識の普及とともにハイリスク MSM 層へ届く介入方法も検討していく。

1) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達のためにも、self-testing の手法の一つである「HIVcheck.jp」が MSM コミュニティにて浸透しうるかを検証する試みは社会的にも意義が高い。地方都市では、急性感染期の医療機関の早期受診の促進、医療者からの適切な時期に検査勧奨を行うことはきわめて重要である。医療とコミュニティが協働し、医療者、MSM コミュニティ双方に働きかける社会的意義は大きい。NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用した MSM への HIV 検査の事業化に成功したモデル事例を周辺県にも拡大させることは、他の地方都市にもモデルになりうる。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。

今後の展望について、本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化や MSM 向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整

備、介入の展開につないでいくことが期待される。

E. 結論

研究は総じて計画通りに進行した。最終年度に向けて首都圏での「HIVcheck.jp」がコミュニティセンター以外でも実施できるか、地方都市のMSMコミュニティにて浸透しうるか、より検査が必要なMSMの検査機会の拡大につながりうるかの検証を行う。また行政や医療機関にも幅広く成果を公表し、今後の検討へつないでいく。沖縄県、中四国での医療機関等を活用した検査促進も、NGOと行政と医療との協働による取り組みとなっており他の地方都市のモデルとなるよう検証を進める。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスクMSMの実態把握調査により、よりハイリスクな層へのアウトリーチ、新たな感染を抑制する試みへとつなげていく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

研究代表者

金子典代

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性. 厚生学の指標, 2018, 65(5) 35-42.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代,

岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) 椎野禎一郎, 蜂谷敦子, 今橋真弓, 松田昌和, 岩谷靖雅, 横幕能行, 金子典代, 羽柴知恵子, 吉村和久: 国内伝播クラスタの検索プログラムの開発2: 東海地方で若年層に急速に伝播を広げるクラスタの検出. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的, HIV 検査行動, 性行動, 陽性者の身近さ. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 今橋真弓, 金子典代, 椎野禎一郎, 松田昌和, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行, 羽柴知恵子: 名古屋医療センターにおける2009~2016年未治療初診患者の後方視的生存率検討. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高いMSM層の実態把握とHIV抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村頭史: MSMを対象とする、郵送検査手法を用いた新たなHIV検査機会としての

「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

8) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018

研究分担者

岩橋恒太

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○Takano M, Iwahashi K, Satoh I, Araki J, Kinami T, Ikushima Y, Fukuhara T, Obinata H, Nakayama Y, Kikuchi Y, Oka S; HIV Check Study Group: Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots delivered through the postal service. BMC Infect Dis., 2018, 18(1), 627.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 瀧永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代, 岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝

大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 4) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 今村顕史: コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 貞升健志, 長島真美, 生島 嗣, 堅多敦子, 市川誠一, 今村顕史 3 HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅 2017」の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 今村顕史, 堅多敦子, 岩橋恒太, 生島嗣: A 型肝炎の流行におけるハイリスク層への効果的な啓発方法の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

塩野徳史

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性. 厚生指標, 2018, 65(5) 35-42.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) Takaku M, Dorjgotov M, Gombo E, Galsanjamts N, Jagdagsuren D, Ichikawa S, Shiono S, Kaneko N, Oka S: Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia 2017: The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Osaka, Dec. 2-4, 2018
- 3) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子: HIV 陽性者のかかりつけ医への通院状況. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 塩野徳史ら: HIV 陽性者での Treatment as Prevention (TasP) の認知状況と性生活・メンタルヘルスとの関連. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 6) 戸ヶ里泰典, 井上洋士, 高久陽介, 米倉佑貴, 大島岳, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子: HIV 陽性者における依存性薬物使用の変化とストレス関連成長・ストレス対処力との関連 3 年間の縦断データ分析より. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 7) 大島岳, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介,

米倉佑貴, 阿部桜子, 塩野徳史, 細川陸也, 山内麻江, 片倉直子, 河合薫, 若林チヒロ, 大木幸子, 渡邊淳子, 梅沢寛子: 板垣貴志: 差別偏見を感じている HIV 陽性者当事者の対処戦略に関する自由記載のテキストマイニング分析. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

- 8) 細川陸也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 阿部桜子, 塩野徳史, 米倉佑貴, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子: HIV 陽性者の子どもを持つことの現状. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 9) 阿部桜子, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 高久陽介, 若林チヒロ, 細川陸也, 塩野徳史, 片倉直子, 山内麻江, 大島岳, 大木幸子, 米倉佑貴, 河合薫, 渡邊淳子, 梅沢寛子: HIV に関連したスティグマと感染後年数との関連の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 10) 塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発. 日本エイズ学会シンポジウムシンポジウム 9. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

健山正男

1. 論文発表

- 1) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

2. 学会発表（国内）

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 健山正男ら: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

和田秀穂

1. 論文発表

- 1) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果の検討. 日本エイズ学会誌 2018,

20(3):216-221.

2. 学会発表（国内）

- 1) ○和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) 野村直幸, 松井綾香, 飯塚暁子, 藤原千尋, 門田悦子, 木梨貴博, 村上由佳, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 9 薬剤師介入による当院通院中の HIV 感染者における梅毒・B 型肝炎・C 型肝炎の罹患動向の把握と薬剤の適正使用に関する取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 3) 松井綾香, 野村直幸, 村上由佳, 藤原千尋, 飯塚暁子, 木梨貴博, 門田悦子, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: 当院における TAF 変更例の腎機能、血中脂質への影響について, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 竹内麻子, 橋本誠也, 徳永博敏, 林 成樹, 内田圭一, 松本誠司, 安井晴之進, 横井桃子, 廣瀬匡, 清水里紗, 佐野史典, 近藤敏範, 松橋佳子, 中桐逸博, 近藤英生, 和田秀穂: Kaposi 肉腫に合併した難治性温式自己免疫性溶血性貧血の治療に苦慮した AIDS 症例, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 三笠かおる, 大島瑞穂, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂: HIV 感染者においてかかりつけ医を持つことに対して障壁となっている心理・社会的要因の調査と検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし